

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>「人間としての尊厳や権利を損なわずその人らしい生き方を目的とし、生き生きとした楽しい生活を支援する」という理念をかかげている。</p>	<p>利用者のニーズの変化に伴い、地域資源や環境を考慮した上で理念を見直す。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員一人一人が理念をきちんと把握し、理解した上で実践に向けて取り組んでいる。</p>	<p>管理者や介護主任、フロアーリーダーが常に職員に対し、利用者一人一人に対する生活上の支援を指導したりフロアー会議などで話し合っている。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域運営推進委員会や家族会などで当ホームの理念を説明し、理解して頂けるよう取り組んでいる。</p>	<p>利用者家族や地域の方に、介護の理解を深めていただく上でも「介護教室」を不定期ではあるが開催している。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>当ホームで行う行事のチラシを個々家庭に配布したり、ホーム前の掲示板に案内を貼るなどして呼びかけを行っている。</p>	<p>今後もすみれ通信を発行し、地域の方々にホームの生活を理解していただき、又 交流を深めるため「ふれあい喫茶」を開催する予定である。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に参加したり、夏まつり・ふれあい喫茶など行事に参加して頂いている。又近くの小・中学校などの行事への参加をさせて頂いている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高校の体育祭見学 ・小学校の音楽界見学 ・中学校のトライアルウィークの受入など取り組んでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方にも参加して頂ける介護教室を開き、知識や技術を提供する場を設ける取り組みを行っている。		地域の方が介護に対してどのような事を勉強したいかを知らせていただき、その内容を取り入れて「介護教室」を開催する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価及び第三者評価を理解し、その結果を各フロアー会議で話し合い改善できる部分は改善策を考え、介護に生かせるよう取り組んでいる。		第三者評価を真摯に受け止め、見直し点や改善策を管理者を中心として積極的に話し合い、開錠や裏庭の利用方法に取り組んでいる。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行い現在の取り組みなどを報告し、その結果を毎日介護サービスに反映できるように取り組んでいる。		会議委員の方々からいただいた助言や情報により「すみれ通信」や「ふれあい喫茶」等を行い、地域行事への参加やホーム行事への呼びかけをしている。
9	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの説明会や集団指導に参加させていただき、サービスの向上に努めている。		運営推進会議の報告や保護利用者の方の対応相談をその都度させていただいている。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強する機会が少ないのが現状です。又、必要な利用者は社会福祉協議会に相談している。		研修の機会を設ける事が必要かと思われる。又、管理者やケアマネジャーからの職員との勉強会を開く機会を設けたい。成年後見制度の研修を受ける予定(7/25リハビリ専門学校において)。金銭管理が必要な利用者に対しては、社会福祉協議会のあんしんサポートに依頼している。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待がない様言葉遣いや対応に配慮し、その都度職員同士注意し合って改善している。		高齢者虐待防止関連法について職員の知識が乏しいので今後の課題として取り組んで行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には細かい内容を記した契約書を渡し、十分時間をかけて説明を行っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が気軽に職員に意見や不満を言えるよう日頃からコミュニケーションを大事にとっている。</p>	<p>利用者のお世話をする職員という関係よりも家族的な何でも話し合える雰囲気与生活していただく様心がけている。又、意見や希望があればできるだけ取り入れる。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月一筆箋を送付し、利用者の現在の状況を報告している。又、面会時にも詳しく報告を行っている。</p>	<p>個々に電話や一筆箋又、すみれ便り等により生活の情報は積極的に連絡しており、家族面会時には意見や要望をうかがい意向に沿う様にしている。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会を設け、その時に出た家族の意見などをリーダー会議・フロアー会議等で報告し、その都度対応している。</p>	<p>家族との信頼関係を築き職員に気軽に意見や要望を伝えられる機会を作っている。又、要望の取り組み方や説明のしかたなどを家族の立場を考えながら行っている。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月一回各フロアー会議を行い、各自意見を述べその後のリーダー会議で伝え反映させている。</p>	<p>管理者は常に各フロアーの業務に携わり職員とのコミュニケーションを大切にし、業務内容や利用者対応に関しての意見や提案を取り入れる様努力している。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>職員の休暇希望を開きながら、必要な時間帯には職員を確保するよう勤務調整を行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はできるかぎり最小限におさえている。離職する場合は、利用者にダメージを与えないようそれとなく伝えるようにしている。		他ユニットの職員も違うユニットを訪問する機会が多く、その時は必ず声かけや挨拶などで顔を覚えていただき同じグループホームの職員であることを認識していただく様心がけている。異動の必要な時のダメージは少ない。
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新職員には研修期間を設け指導を行っている。		ホームの理念や運営方針の説明から始まり、グループホーム内での生活ぶりや職員の業務内容を把握した上で実務研修を開始するが、本人の能力や経験によっても研修期間や指導計画を変えている。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設から研修に来られたり、逆に研修に行くなどして、新しい知識や情報を取り入れサービスの質の向上に努めている。		他施設と交換研修を実施しようと企画はしているものの、職員の不足により具体的に取り組み事が困難な状態です。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士の親睦を深めるため、時より飲食の機会を設けている。		業務内容の簡素化を検討する。和やかな職場の雰囲気づくりに努力する。
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	自由意志であるが、職員が積極的にセミナー等に参加している。職員のスキルアップを側面から支援している。		職員一人一人が労働に対する意欲を持てるよう努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	本人が相談を持ちかけやすいよう、平素から良好な人間関係を築いている。	状況を的確に判断した上でアドバイスしている。場合によってはフォローしている。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	当ホームの見学をしていただき、生活内容を知っていただく。	入居申し込み時に要望や今家族やご本人が生活に困っておられる事実を伺いながら、当ホームでの提供可能な事や不可能な事を話し合っている。
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	心身の状況に応じたサービスを提供できるよう、ケアマネジャーの応援も得て対応している。	協力機関を常に把握し、サービスアップに努めている。広範囲にわたり情報提供する。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	見学時よりホームでの生活について説明し、入居後も本人の立場になって考え、早く馴染んでいただくよう努めている。家族の意向はできるだけケアプランに反映させている。	入居前にその方の生活ぶりや意向を取り入れる為、管理者と介護支援専門員が自宅訪問を行ったり、ホーム見学を家族と一緒にしていただきグループホームでの生活の雰囲気を感じ取っていただき納得していただいた上で入居の自己決定をしていただいている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員が洗濯物の取り入れ、料理の下ごしらえや取りわけ等利用者のできる事は一緒にしている。	できないと思われる事でも決めつけないで利用者にしていただく。同じものを見て聞いて会話しながら共感する。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	利用者のホームでの生活状況を伝え、理解を得ている。利用者を家族・職員で共に支援している。		
29	利用者との家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者との家族が直接交渉しあえる機会を提供している。両者が相互に理解しあえるよう場合には間に入ることもある。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホーム内の行事（夏まつり・クリスマス会など）に家族と共に参加していただいている。暑中見舞や年賀状などを身内や親しい人にあてて書いていただいている。		利用者が行きたい場所へお連れする。会いたい人がいれば面会できるよう努める。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同作業やコミュニケーション等を通して、利用者同士が良好な人間関係を結べるよう支援している。		利用者同士と一緒に洗濯物干しや取り込み・片付けなどの家事に関われるよう又、お茶を入れあったり、できない所を補いあったりできるよう支援している。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ビジネスライクに徹することなく、契約終了後も暖かい心の交流を大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段からコミュニケーションを通じて利用者本人の意思を汲み取るよう努力している。意見伝達困難な利用者の場合、職員で話し合って意見交換している。</p>	<p>馴染みの関係づくりを重視し利用者一人一人の暮らし方の希望や意向を汲み取っている。又、意思伝達が困難な方は、その方の立場に立って職員が話し合った上で家族に伝え理解を得ている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時利用者やその家族から詳しい話を聞くことにより把握している。</p>	<p>利用者との会話の中から昔の話がどの様な暮らしぶりだったかなどを汲み取っている。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>申し送りの場に出たり、カルテ等を読むことにより職員全員が利用者の状況を把握している。</p>	<p>フロアー会議やケアカンファレンスを行って利用者一人一人の現状を把握できるよう意見交換や情報交換を行っている。</p>
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の現状を見極めた上でそれに合わせたケアをしている。</p>	<p>ケアカンファレンスにて家族の意向や職員の意見を取り入れた介護計画を作成している。又、定期的に「家族会」を開き、利用者の家族から出たさまざまな意見を介護に反映させている。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的に見直しをしている。利用者の状況に変化があれば関係者同士が話し合い、適したプランをたてている。</p>	<p>見直しを行う場合その時々気づいた事や思った事の意見交換を行い、現状に即して達成できる計画を作成している。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	その日の出勤者が分担しカルテを記入している。カルテを読むことで職員が情報を共有している。		カルテの他に受診ノートやフロアー別申し送りノート・ひやりはっと報告書なども情報の共有に役立っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	多機能型の施設ではない為、サービス内容が限定される。しかし、できるだけ利用者のニーズにこたえられるよう努めている。		利用者の変化していく状況に応じて、重度化した場合や終末期の利用者が安心して生活が出来るよう、負担となる受診は訪問診療や訪問看護にて行い、看取り介護に取り組む努力をする。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	必要に応じて利用できている。文化的なボランティア(演奏・踊り)は積極的に利用できている。		地域のボランティアに来ていただけるような取り組みも必要かと思う。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	必要に応じディケアサービスを受けている利用者もおられる。		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	運営推進会議や「介護教室」では多大な協力を得ている。		特に地域包括センターに相談を持ちかけるような必要がないため、運営推進会議等にご協力を得ているが今後権利擁護については、勉強会や職員研修を行ってほしい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の家族の希望を聞き、必要に応じて受診相談・報告を行っている。		体調不良時はその都度、協力総合病院専門医に受診している。又、月に二回訪問内科診療を受けている。
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の受診が必要と事業所が判断した場合は、受診・相談している。		必要時はかかりつけの認知症専門医に受診している。
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	月に二回の訪問看護を通じ、利用者の体調等報告・相談している。又、受診が必要かどうかの相談を行い指示を仰ぐ時もある。		ちょっとした事でも相談できて専門的な意見を聞いて利用者の対応を役立てていきたい。
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	医療法人社団という事で法人内に病院があり大半の入居者がその病院に受診し、こまめに情報交換できている。又、訪問看護・訪問診療サービスにより以前に比べると早期退院ができる様になっている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	当ホームではターミナルを迎えた入居者がまだいない。必要に応じて家族と話し合い進めている。		重度化した場合の指針を打ち出して家族の方々や職員に説明は行っているものの病状等が悪化した場合、提携病院に入院されるケースばかりなので実際にホームにて終末を迎えられた利用者はいない為今後の課題である。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化した場合、当ホームでの生活は難しく法人内の施設を含め他施設への転居を進めている。		利用者や家族が安心して日常生活がおくれる様、かかりつけ医や訪問看護ステーションと検討を行う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供や相談など行っている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1.その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを考えた言葉かけや対応をするよう気をつけているが、馴染みの間柄になるとくずれてしまいがちである。個人情報の流出には気をつけている。		家族や部外者が聞いても、恥ずかしくない言葉かけ・対応をいつもできるように各個人気をつけていく。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の希望を伺い、判断してもらうよう心がけているが、職員の人手不足などにより十分な支援ができていない。		一人一人に合わせた支援が少しでも多くできるよう、チームで検討を重ね意識して取り組んでいきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員不足や日常の忙しさを理由にその日の過ごし方の希望までは聞いていない。無理のないよう過ごしてもらえるようには心がけている。		原点に戻って一人一人の生活の質を考えつつ希望を伺って支援しなければならない。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服選び一つをとっても自分で決めている人と意向を聞いていない人がいる。行事参加の時は、おしゃれをしていただいている方も多い。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割分担していること（おしぼり準備・台拭き・お茶用意）時間がせまると職員だけで準備・片付けをしている事が多い。		時間に余裕を持って利用者楽しく関わってもらよう取り組まなければならない。
55 利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者が望むおやつに関しては一緒に買い物に行ったり、家人が購入したものを本人持ちとして常備し希望に応じてお出ししている。喫煙・飲酒はホームでは行われていない。		喫煙・飲酒に関しては家族・本人の希望があれば、そのような機会を作ってあげたい。
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個人の排泄パターンに応じて対応をしており、トイレ誘導の必要な方は頃合をみて声掛けを行っている。		尿意がある方はそれを大切にしたい。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に三回のペースで入浴して頂いており、拒否がある時には順番を変更もしくは中止し翌日に入ってもらっており、無理強いせず入浴して頂いている。		本人の希望の時間帯までは聞けていない。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	居室への出入りはいつでも自由にできる様にしており、好きな時間に休息したり安眠できる環境が整っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割をもってもらい生活に張り合いがもてるよう支援している。楽しみごと気晴らしにおいては、人員不足の日もあり十分な対応はできていない。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持する事ができない為ホームで管理しているが買い物に行った時にはレジで支払って頂いている。又、個人別の出納帳を記入しており毎月家人に確認して頂いている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員と共に買い物に行ったりドライブや散歩も定期的に行っている。		買い物や散歩などいつも外出されるメンバーが決まっているので、できるだけ一人一人の希望にそって全員が外出できる様にしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得て一人一人の行きたい場所の希望に応じて外出の機会をつくっている。		本人が行きたい場所を伝えられない利用者が多い為、職員が楽しんで頂ける事を見つけ出し、お散歩や外出の機会を増やしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月一筆箋を送り利用者の状態を詳しく伝えている。又、年賀状なども送ったり本人の希望に応じて電話をかけたり取り次いでいる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人にはいつでも面会に来て頂ける様伝えており、行事などがある時には必ず連絡し訪問しやすい様にしている。又、訪問時には居心地良く過ごして頂ける様に努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアに取り組んではいるがやむを得ない場合のみ利用者の安全を考え行う場合もある。ただし身体拘束を行う場合は家人に了解を得て時間・場所等細かく記録しできるだけ拘束時間を減らしていける様取り組んでいる。		職員間で身体拘束に対する意識レベルの差がある為、今後意識レベルを高めていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠はせず、いつでも出入りできる様になっている。(1Fのみ)又、事故がない様見守りには十分気をつけており自由に移動できる様に取り組んでいる。		現在2F南フロアーに関しては日中も玄関の鍵をかけており行動制限を行っている状態である。今後は施錠を行わない様に取り組んでいきたい。
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者の人格を尊重し声掛け・見守りをしている。夜間は定時に各居室の見回りをし、体調不良などの利用者がある場合には頻繁に巡回している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤など体に有害な物はすべて入居者の手の届かない所に保管しており、個人の物は家族と相談し施設側で保管したり持ち帰って頂いたりしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはつとでの事故報告書や職員で話し合いをして、事故を防ぐための取り組みを行っている。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時には対応できる様に職員全員が市民救命士講習を受講している。又、緊急時対応マニュアルがあり、いつでも対応できる様にしている。		入居者それぞれに起こりうる事故のケースを予測し防止の為にの関わりを行っているが事故後の対応・対処方には改善の余地がある。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練を行い利用者が安全に避難できる方法を身につけている。又、地域の人々にも協力して頂ける様に働きかけている。		誘導の難しい利用者の誘導方法や階段を使って誘導する方法など職員全員が対応できる様に訓練を行う必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	面会時や電話・手紙による連絡で家人に生活状況を伝え情報交換は行っているが、緊急性の高いリスクのある入居者は現在いない為、リスクマネジメントは進んでいない。		入居者が快適に生活を送れる様にプライバシーの尊重などに配慮し、随時カンファレンスを行う機会を増やしたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定・検温を行いその日の体調を職員間で情報交換・共有している。体調の変化を見逃さない様に入居者からの訴えだけでなく毎日の状態観察に努めている。		居宅療養管理指導にて、月二回の訪問診療や月二回の訪問看護を行っている。
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の服薬内容を把握する為に処方箋は個人ファイルにつづり、内容の変更時はフロアーノートで申し送り確認の徹底を行っている。薬の管理はすべて施設側で責任を持って行っている。		居宅療養管理指導にて薬剤師による、薬剤指導を行っている。
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中の運動や一定量の水分摂取により排便を促している。排便チェック表にて排便の有無・量・形状を把握し、医師の指示にもとづき下剤を用いて排便コントロールしている。		繊維質の多い食事を心がけている。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行っており各入居者の口腔状態や介助の必要の有無を見極め清潔保持に努めている。又、定期的に歯科往診を受けて頂き医師の指示にもとづき対応している。		居宅療養管理指導にて月に三回訪問歯科や訪問歯科衛生指導を行っている。
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の嚥下能力に応じて食事形態を変えている。又、チェック表をもちいて食事量を把握し保食・おやつなどを提供するなど一定量を確保できるように支援している。		食器や食材の色どりに工夫をこらし、目でも食事を楽しみ食欲を増進していただくよう支援している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい・手洗いを徹底し予防に努めている。又、入居者・職員共年一回インフルエンザ予防接種を行っている。		感染症に対する職員の知識は十分とは言えず、今後課題として取り組みが必要である。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器類・調理器具はこまめに消毒し清潔保持に努めている。又、食品は業者から新鮮な食材を配達してもらい配達後の管理も徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の花壇を増やしアットホームな雰囲気作りに努めている。又、行事がある時には近隣にポスターをはり一般の方にも入りやすい環境作りに努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気作りを有しており一般家庭が使用している家具を使用している。又、季節感のある置き物・花などを置き居心地よく生活ができる様に努めている。		季節感のある草花を植え、花を見ながらお茶を楽しんでいただいたり、その花を摘んでテーブルに飾っていただいたり、ホッとするひとときを作り出している。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを考えて配置し、自由に使用できるように工夫している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には入居者の使い慣れた家具や生活用品を持ち込んで頂き、安心して生活できる様に家族とともに相談し落ち着ける空間を作っている。		ご自身が実際に使っておられたお茶碗や湯呑み、衣類や布団・趣味の物品を使用していただき、安心と安定した生活を支援している。
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日掃除の際は空気の入換えを行い、浴室・トイレは換気扇が回っている状態に合わせた温度調節を行っている。		各居室には換気口があり、常に空気の入換えには配慮している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・居室すべてに手摺りが備えつけてあり夜間でも安全に移動ができる様、照明を増やし安心して生活できる様にしている。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の能力を活かす事ができる様にそれぞれに役割を持って、毎日の日課として取り組んで頂き、個々のサービスを提供している。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんで、活動できるように活かしている	駐車が広く草花をたくさん植えており職員と一緒に花の水やりや草抜きなど楽しんで活動してもらっている。又、毎日の洗濯物干しや取り入れも一緒に行っている。		利用者単独で洗濯物干しや花の水やりを外に出されたりする為、安全には配慮している。

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)